

令和6年度学校自己評価

番号	項目	評価	
1-1	学校は、ホームページで情報を十分に公表できていますか	3.25	B
1-2	学校は、各種通信をととして、十分な情報を提供していますか	3.08	B
1-3	学校は、各科に応じた特色ある教育を実施していますか	3.08	B
1-4	学校は、地域と連携した教育活動をしていますか	3.15	B
1-5	学校は、生徒の学力を伸ばす指導をしていますか	2.73	B
1-6	学校は、生徒の意欲を引き出す指導をしていますか	2.80	B
1-7	学校は、生徒理解に基づいた指導をしていますか	2.68	B
1-8	学校は、規律正しい生活を送る指導をしていますか	2.63	B
1-9	学校は、部活動が積極的に行われていますか	2.30	B
1-10	学校は、的確な進路指導をしていますか	2.68	B
1-11	学校では、校舎内外の美化が図られていますか	2.88	B
1-12	学校では、危機管理に対応した防災・防犯教育が行われていますか	2.38	B
2-1	職員は、服装や頭髪への指導ができていますか	3.00	B
2-2	職員は、あいさつ指導ができていますか	3.05	B
2-3	職員は、学習指導ができていますか	2.73	B
2-4	職員は、部活動指導ができていますか	2.18	C
2-5	職員は、学校が地域活動に取り組む指導ができていますか	2.45	B
2-6	職員は、通学マナーや交通ルールの指導ができていますか	2.40	B
2-7	職員は、生徒のボランティア活動参加への指導ができていますか	2.38	B
2-8	職員は、生徒がいじめやトラブルのない学校生活を送るための指導ができていますか	2.78	B
2-9	職員は、生徒が進路目標やその実現に向けての計画性を持てる指導ができていますか	2.75	B

A:3.3以上 B:2.3～3.3 C:1.3～2.3 D:1.3以下

令和6年度 各部の重点目標

I 総務部

基本方針	・「開拓者精神」の理念の下、基礎基本の力、自分で考える力、自ら行動する力を備え、地域を支え、これからの地域社会の発展に貢献できる人材育成のための環境づくりを行うとともに、ダイナミックな教育活動が行えるよう定員確保に尽力する。
専門性等	・高校生ふるさと貢献・活性化事業やインターンシップ等の活動を広報・サポートすることで専門性の向上とキャリア教育の充実に尽力する。
自尊意識等	・氷上高等学校で行われる「体験活動」や「命の教育」、その他の体験活動を広報・サポートすることで自尊意識の醸成を促進する。
人権意識等	・各行事、集会を計画通り粛々と進めていく中で、自分とは違う考えを尊重し、他者と対話する姿勢を身につけさせる。また、公共の精神や政治的教養を育む。
地域連携	・中学校訪問の定期的実施など、特に中学校との連携を深め、中学校を巻き込んだ教育活動を企画・実施し、地域になくてはならない学校として認知度を高める。
特別支援教育	・特別支援学校との交流学习についての活動を広報・サポートすることで特別支援教育、協働と交流学习の充実に尽力する。また、心のサポート推進事業に生徒指導部・保健部と連携して取り組み、生徒の個に応じた指導を行う。
職員の協働	・行事後のアンケートや先生方のアイディアを形にして実施する。 ・オープンハイスクールを各科、専門教科に任せず、教職員全員で取り組んだりすることで協働意識を醸成する。
教職員の資質	・教務部と連携協力し、研究授業、公開授業への参加を促すとともに、実施したアンケートのフィードバックなどを行う。
本校の魅力の発信	・来年度に向けて、誰もが作成・更新に参加できるようにHPのリニューアルを行う。 ・学校だよりの定期的な発行や、行事ごとのHP、ブログの更新を行う。 ・学校案内・パンフレットで生徒の様子や教育活動がわかるようにする。
本校の将来像	・中学校からの情報、オープンハイスクール参加生徒の意見等を分析し、今後の方向性を検討する。
成果と課題	・校運メンバーを中心に月1回中学校訪問を実施することができた。在校生の情報を頻回に伝えたいと考えていたが、スムーズに情報収集ができなかった。 ・各学年、年2回、中学校へのはがきを送ることができ（実施中）、訪問時の会話のきっかけや課題研究発表会に中学校教員が参加するなどの効果があった。 ・オープンスクールでの全職員による選択授業の取り組み、学校便りやパンフレットの方向性の変化により、氷上高校が変わる印象・イメージを中学校に与えることができた。しかし、受検者の増加には繋がっておらず、長期的な取り組みが必要だと思われる。 ・各科、各部、学年と事前に調整し、滞りなく行事を進めることができた。桃陵祭など生徒募集活動と関連しやすい行事とのさらなる連携協力が必要である。 ・来年度からのHPリニューアルに向けて、現在準備中である。

2 教務部

基本方針	・基礎学力の定着と主体的・協働的学習の積極的な導入を図り、生徒の適性・能力・進路に応じた教育を目指す。 ・「丹波学」を柱としてカリキュラムを運営する。
基礎学力	・朝学習を活用して、学習習慣の確立と義務教育段階の学習内容の定着を図る。 ・TT授業、少人数授業を活用し、生徒個々の能力に応じた学習を進め、基礎学力の定着を図る。 ・主体的・対話的、協働的学習を積極的に取り入れることで、思考力・判断力・表現力・課題解決力等、確かな学力や生きる力を養う。
専門性	・年3回の公開授業週間を実施する。 ・専門性の向上に繋がる資格取得や検定試験を推進する。
自尊感情	・「丹波学」を通じて、ふるさとを学び、郷土愛と自尊心を高める。
地域	・「丹波学」を通じて地域との連携を強める。 ・公開授業を地域の中学校へ案内する。
特別支援教育	・研修会を実施し、個々の生徒の実態と可能な支援等について情報を共有する。 ・必要に応じた合理的配慮を行う。
職員の協働	・定期的に委員会や研修会を開催し、情報の共有を図る。
教職員の資質	・公開授業、研究授業の実施と見学を促し、授業力の推進を図る。 ・多彩な教育アプローチを知るために、教科、世代を横断した授業見学を促す。 ・ICTの活用を促す。
本校の魅力の発信	・「丹波学」の取り組みをHPに掲載したり、記者発表を行い、取材を依頼する。 ・多彩な進路に応じた教育課程を実施する。
将来像	・商業科目の学習を通じて経営感覚を持った農業人を育てる。 ・「地域未来」→「起業経営」→「課題研究」の学習の流れにより、地域を支え未来を拓く生徒を育てる。
成果と課題	成果 ・「丹波学」を通じて地域との連帯をはかり、地域社会の一員としての意識を持つことができた。 ・学習指導研修会で個々の生徒の特性について情報共有ができた。 ・地域の中学校から公開授業に来られる先生が増えた。 ・教師・生徒がICTを使うことで、インタラクティブな学習ができた。 また生徒がICTを使って共同でプロジェクトを進めることで、協働作業や問題解決能力を育むことができた 課題 ・公開授業の授業見学の人数が少ない、教員の研修機会として校内の見学者を増やすため次年度は方法を変える。 ・教員の数やリソースが限られているため、TT授業や少人数授業の実施が難しい科目がある。 ・ICTの管理が大きな負担となっている。生徒や教師全員のPCやタブレット、校内のICT機器の管理を他の業務と兼務しながら一人で行うのは難しい。ICTに苦手意識のある教員のサポートも大きな負担である。

3 生徒指導部

基本方針	・学校安全教育の推進、教育相談の充実、健康教育・健康相談の充実、学校の環境衛生の維持に努め、生徒自身が主体的に活動を行える環境づくり、心身共に健康な学校生活の確立を図るように取り組む。 ・夢の実現に向けて自立心や自律心を養い、基本的生活習慣を身につけ、意欲を持って高校生活を送ることができるよう指導するとともに、自信と誇りを持ち、社会のために貢献できる人材を育成する。 ・いじめの未然防止のため、県のプログラム等を利用し、様々な活動を工夫し新しく取り組む。
自尊意識等	・生徒一人ひとりを大切に、生徒の的確な把握と内面的な理解に努め、心のサポートシステムの実践・研究を推進する。 ・教科指導・特別教育活動および関係機関やキャンパスカウンセラーと連携し、多角的、総合的に生徒を理解し、いじめの未然防止と解消に努める。 ・生徒の理解に努め、わかりやすい指導を行うことを心掛ける。学級活動や地域交流などを通して、生徒が互いに協力する雰囲気づくりを行う。 ・生徒が自分たちできまりをつくり、それを守ることや、いじめを自分たちの問題として考え、話し合い、行動できる力を育むことを目標とする。 ・問題行動への計画的・継続的な指導と予防的な生徒指導に努める。
人権意識等	・人権意識は生徒が主体的に関与し、参加し、体験することを通してはじめて身に付く。 ・民主的な価値、尊敬及び寛容の精神など、それらの価値自体を尊重し、その促進を図ろうとする学習環境を整え、日々の活動・学習過程を通じて継続して指導をしていく。 ・人権意識の能力や資質を育成するためには、自分で「感じ、考え、行動する」という主体的・実践的な学習が必要であるため、余裕を持つ指導に注意をする。
地域連携	・家庭や地域との連携を密にし、教職員の共通理解を図り指導の徹底を図る。 ・学校からの配布物や保護者会などを通じて、本校の指導方針等についての理解や協力を求める。中学訪問への取り組み。
職員の協働	・全教職員の共通理解を図り、協力体制を確立する。 ・地域行事への積極的な参加を推進する。
教職員の資質	・生徒の気持ちは「受容・共感」的に受けとめ、許容できない言動に対しては「指導・要求」していくことで、生徒の生き方・在り方に積極的に関わる。
本校の魅力の発信	・地域社会で、すすんで「挨拶」を行うことのできる環境づくり。 ・氷上高校生としての誇りを養い、地域から信頼・期待される生徒を育てる。 ・清掃活動や部活動での大会実績をあげ、生徒会活動等の教育活動を地域に積極的にアピールし、地域住民の認知度を高め、学校全体のイメージと信頼の向上に努める。
成果と課題	成果と課題 ・生徒会主体で行事（体育祭・桃陵祭）の見直しを行い、自己有用感を高める教育活動の工夫をチームでできた。目安箱の設置、桃陵祭では新たに成果物のPRタイムを取り入れた。 ・部活動員中心で地域清掃など積極的に行い、学校のイメージと信頼向上に努めることができた。 ・今年度も大きな交通事故がなかった。交通安全の意識の向上教育の成果。 課題 ・スマートフォンの使用時間が長くなっており、歩きスマホなど危険な使用をする生徒がいる。スマホのモラル教育の継続。 ・昨年度の課題を受け、いじめの解消率100%を目指した。現在のところ認知4件。うち3件が解消している。（解消率75%）

4 進路指導部

基本方針	・生徒一人ひとりが主体的に自らの在り方・生き方を考え、能力・適性に応じた進路選択と自己実現ができるように、学校教育活動の各段階を通じて効果的な進路指導の取り組みを行う。
基礎学力	・全職員と協力して、教科指導はもちろんのこと学校行事、進路行事などを通じて進路意識を高める。また、教務、学年と協力し、基礎学力向上に努める。
専門性	・進路情報提供業者と連携し、計画的かつ効果的な進路指導を実現させる。 ・インターンシップの指導を充実させ、社会的自立を促す。
自尊感情	・キャリアノートを活用し、自己理解を高める進路 LHR を実施する。 ・進路行事を通して地元企業や進学先について学ぶ機会を充実させる。
人権意識	・キャリアノートを活用し、勤労の義務と権利を学習する進路 LHR を実施する。
地域	・丹波市や地元企業と連携し、2年次でインターンシップや職場見学、3年次で就職フェアや応募前職場見学を実施、地元企業を理解した就職指導を行う。
特別支援	・支援が必要な生徒の進路について、関係機関と連携して指導を行う。また、支援の流れについて共通理解を図る。
職員の協働	・特に各学年と連携を図り、生徒の進路意識を高めた進路指導を目指す。 ・教務部と連携し、基礎学力の向上を図る。
資質能力	・研修会や学校説明会に積極的に参加し、最新の情報を共有する。
本校の魅力の発信	・HP を通して、進路指導の様子をタイムリーに発信する。
将来像	・地域に根差した専門高校として、将来地域で活躍できる人材を育て、地域と共に歩む学校を目指す。
成果と課題	成果 ・学年・部・科と連携し、インターンシップ等進路行事の指導の充実を図れた。 ・Google Classroom を利用し、求人票の公開や進路アンケートの実施、報告書の作成などをペーパーレスで自宅でも行うことができ、進路希望について保護者と話ができる環境を創出できた。さらに編集・統計などを省力化できた。 ・ブログを通して進路指導の様子や成果を発信できた。 ・地域に根差した専門高校として地域で活躍できる人材を輩出できた。 (進学 53.3%、就職 45.6%、その他 1.1% 就職のうち地元就職 80.5%) 課題 ・県のキャリアノートを参考にしたキャリア教育のさらなる充実。 ・業者を活用した基礎学力向上におけたさらなる取り組み。 ・進路決定後の学校生活の送り方について指導。 ・進路行事の精選とデジタル化が進む中での効果的な情報提供の工夫。

5 農業部

基 本 方 針	・ 特色ある様々な体験活動をととして、開拓者精神の高揚を図り、地域および社会で活躍できる人材を育成する。
基 礎 学 力	・ 学習の中で基礎的、基本的学力や技能を定着させるとともに、主体的な学習活動を積極的に導入し、課題解決能力等の学力を養う。
専 門 性	・ 社会変化や産業の高度化に対応するため、ICT能力など専門性を高める取り組みを行うとともに、生徒の社会的自立に向けた専門的な学びを高める。
自 尊 感 情	・ 専門学科における「体験的な学習」や「実物を用いた教育」によって生徒の自尊感情や他者尊重の醸成を図る。さらに、地元丹波地域への関わりの中で、ふるさとへの学びを深め、大切な地域を担う意識の醸成を図る。
人 権 意 識	・ 各種の実習や学習活動の中で、他者と協働する姿勢を身に付けさせるとともに、人権意識を高める。
地 域	・ 課題研究発表会や就農講座等で地域との連絡を密にとるとともに、地元の関係機関や企業と連携した教育活動を推進する。 ・ 地域の要請に応じ、各科が持てる力を発揮し、協力を惜しまない姿勢を常に示す。
特 別 支 援	・ インクルーシブ教育についての理解を深めるとともに、配慮が必要な生徒に応じた実習指導の充実を図る。
職 員 の 協 働	・ 教育活動における部内の共通理解を図り、協働体制を確立する。また、農場職員が心身の健康が保てるように様々な点で助け合いの精神を持つ。
資 質 能 力	・ 定期的な研究授業の実施や幅広い分野での研修を積極的に行い、部員の専門性や実践力の向上を図る。
本校の魅力の発信	・ 農場での日々の出来事や専門高校の特色ある学習活動などを発信し、開かれた学校づくりを進める。 ・ 地域の課題解決の一端を提示できるような課題研究に取り組む。 ・ 兵庫県学校農業クラブの県大会での上位入賞を目指し、近畿大会、全国大会に出場する生徒を一人でも多く出す。
将 来 像	・ 産業教育を通じて生徒の専門性を高めるとともに、やがて指導者として地域に戻り、地域を支え、貢献していく人材を育成する。
成 果 と 課 題	・ 定期的な販売実習の実施や地元農業法人との連携など、農業高校として地域に貢献することができた。 ・ 農業クラブ活動について取り組みを進め、様々な行事を円滑に進めることができた。 【主な農業クラブ活動実績】 農業鑑定競技会全国大会：分野野菜 優秀賞 プロジェクト発表会県大会：分野Ⅰ類 優秀賞（丹の商班） ・ 長野研修については6名の生徒が参加した。参加生徒は農業分野での進路が考える者が多くなっている。来年度も実施予定であるが、参加生徒の決定等計画的に進めたい。 ・ 定期的な会議を実施し職員間での課題解決と情報共有が進めることができた。施設設備の修繕や改修なども視野にいれ計画的な予算執行が必要である。 ・ ICTについては農場にWi-Fi環境がないため、圃場内での観察等での活用が十分にできていない。ルーラル図書の積極的な活用を進める必要がある。

6 保健部

基本方針	生徒自らが、健康の保持増進に努め、心身共に健康で安全な学校生活を送ることができるよう実践的な能力と態度を育てる。
専門性等	- 健康診断結果に基づき、生徒が自分の健康状態を理解し、自分自身の健康管理をする能力を育成する。 - 生徒に寄り添いながら健康課題を的確に把握し、課題に応じた情報提供と学習の機会を持つ。
自尊意識等	生徒自身が自分は大切にされていると感じられるよう支持的な関わりを心がけ、学校生活を通じて達成感が得られる機会を増やす。
人権意識等	- 自他共に尊重し大切にできるように人権意識の向上を目指した LHR 計画や取組実践をする。 - 人権教育講演会を実施し、人権問題について考え絆を深める。
地域連携	健康福祉事務所や市教委の S S W 等と情報交換を行い、本校の健康課題や学校保健に関する課題について連携を図り取組実践をする。
特別支援教育	- 特別支援教育コーディネーターや担任、学年とこまめに情報交換を実施し、共通理解のもと個に応じた支援を行う。 - 年度当初に特別な支援を必要とする生徒についての情報共有を全職員で行い共通理解を図る。 - 支援の必要な生徒の実態を的確に把握してニーズに応じた支援を行う。
職員の協働	- 生徒の様子をこまめに情報交換し共通理解を図る。 - 各学年、専門部が組織間で協力し連携して足並みのそろった対応をする。 - 各種校内研修を通して、生徒対応、救急処置、災害対応等を学び、職員で共に協力して実行する。
教職員の資質	- 職員研修会等・資質能力の向上を図るための学びの場を企画実施する。 - 学校事故や災害等の対応について意識の向上を図るための情報発信に努める。
本校の魅力の発信	- ホームページ等を活用し情報発信の場として有効に使えるよう検討する。 「保健だより」の発信、カウンセリングの日程、保健行事のお知らせ、保健的行事のブログ掲載を積極的に行う。
本校の将来像	生涯を通じてたくましくしなやかに生きる生徒の育成をめざして、正しい知識を持ち、リスクマネジメント能力を使い適切な行動を選択できる生徒に成長してほしいと願っている。
成果と課題	成果 - 生徒たちが自らを理解し認めることができるような語りかけを行い、対話を中心に様々な場面で生徒対応をおこなうことができた。 - 特別支援教育コーディネーターや担任、学年とのこまめな情報共有を心掛け、個のニーズに応じた支援に繋げることができた。 課題 - 職員間でのこまめな情報教育と共通理解のもと足並みの揃った対応ができていない。情報共有システムの構築が必要と思われる。 - 組織としての動きが全くできていない。養護教諭一人ではマンパワーが不足しています。現在の組織体制が改善されなければ、きめ細やかな保健室経営は不可能です。保健部の組織体制づくりを強く求めます。

7 第1学年

基本方針	①それぞれのクラスが科の特性に応じて自ら目標を掲げ、達成に向けて努力ができるよう支援する。 ②人物はもちろん、自分の周りのすべてのものに対してリスペクトする心を育む。 ③自ら実行する気持ちを育み、様々な変化に力強く対応する力を養う。
専門性等	・所属する学科で学ぶ内容と社会とのつながりを意識し、専門性に応じて進路における自己実現を意識させる。 ・学科の授業を通して命を大切にし、命から学ぶ姿勢を持つよう支援し、実習を通して専門性を身に着けることを意識させる。
自尊意識等	・生徒自主企画の学年集会、レクリエーションを行い、生徒自身が主体的に、生徒同士で対話的に活動させ、自尊意識向上を実感できるようにさせる。
人権意識等	・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。
地域連携	・地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援教育	・学習指導研修会において、個別支援計画、中高連携シート等を活用して、支援を要する生徒について、職員全体での支援体制を確立できるように努める。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	・日常より学年全体での連携、情報共有を行い協働支援体制を確立する。
教職員の資質	・各自の役割に責任を持ちつつ、幅広い視点から学年運営に携わる。 ・各種研修や研究会等に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力の発信	・生徒の作文や活動風景の写真を中心に学年通信を編集し、学校生活の見える化を意識する。最低月1度発行する。
本校の将来像	・卒業後に地域を支える人材を育成する学校。 ・地域に根差した学校。 ・地域に愛される人を育て、地域に愛される学校。
成果と課題	・入学後のLHRにおいて各クラスでクラス目標を作り、HRや学年集会でことあるごとに目標に立ち返れる話をしてきた。概ね目標を達成し、来年度向かっており、来年度もまた新たな年度、新たな学年の中で目標を見直し、加筆修正しながら進めていきたいと考える。 ・人間関係を作り上げていくことに関する指導を個別に、またはHRや学年集会を通して行ってきた。他者を尊重する心は入学時から少しずつ育まれてきたと思われる。 ・HR委員を中心に生徒が企画し運営するレクリエーション、ドッチボール大会を行った。クラス対抗ではない形でチームを編成し、クラス外のメンバーとも知り合う機会の1つとなった。クラス単位でのHR委員の企画運営のLHRも実施し、自分に立ちで作り上げる難しさに向き合いながらも、自主性の向上に対して努力できた。 ・進学希望者を対象とした学習会を立ち上げ、自らの進路計画や目標を発表したり、検定試験等の受験計画を立てた。また実際に大学に訪問したり、来校された大学生や専門学校生との話し合いの機会を持ち、多様な人々と関わる体験ができた。 ・学年通信を月に1度～2度発行し、部活動での様子や地域、学校でのイベントの様子、表彰された生徒の紹介などを行った。

8 第2学年

基本方針	学年目標 「素直な人 思いやりの人 挑戦する人」 ① 素直に人の話に耳を傾けられる姿勢と態度を身につけさせる。 ② 他者にも自分にも思いやりを持てる優しい心を育む。 ③ 各自が明確な目的意識を持ち、自主的・積極的な取り組みを積み上げ、充実した高校生活を「自ら」作ることができるよう支援する。 ④ 遠足、インターンシップ、修学旅行、その他の学校行事等を通じて「メリハリ」のある集団づくりに努める。
専門性等	・所属する学科で学ぶ内容と社会とのつながりを意識させ、自己実現・進路実現を意識させる。 ・学科の授業を通して命を大切に、命から学ぶ生徒を育てたい。 - 特に、「実習を頑張れる生徒 実習から学べる生徒」を育てたい。
自尊意識等	・生徒が企画する学年行事を行い、生徒自身が主体的・対話的に活動させ、コミュニケーション能力の向上を実感できるようにさせる。
人権意識等	・人権HR等を通して、自己理解と他者理解の重要性を認識させる。
地域連携	・地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援教育	・学習指導研修会において、個別支援計画、中高連携シート等を活用して、支援を要する生徒について、職員全体での支援体制を確立できるように努める。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	・日常より学年全体での連携、情報共有を密にし、協働支援体制を確立する。
教職員の資質	・各自の役割に責任を持ちつつ、幅広い視点から学年運営に携わる。 ・各種研修や研究会等に参加し、情報の共有化を図る。
本校の魅力の発信	・学年通信を月1回発行し、情報発信に努める。 ・本校のHPやBlogを通じて、学年のトピックスを積極的に発信する。
本校の将来像	・卒業後に地域を支える人材を育成する学校。 ・地域に根差した学校。 ・地域に愛される人を育て、地域に愛される学校。
成果と課題	成果 2学年は、修学旅行、インターンシップ等、大きな行事が実施される学年である。「行事を通しての成長を」という意識を学年団が共有し、折に触れて生徒に対して発信・指導してきた。各部、学科と密に連携を図り、インターンシップを無事に終えることができた。生徒は、実際の社会に触れたことで、ひと回り大きく成長できたと思われる。あわせて、桃陵祭や体育祭、球技大会などの学校行事では、各々が自覚を持った行動をし、昨年よりも充実した行事にすることができた。 課題 成果の一方で、一部の生徒に生活態度の乱れや学習への意欲低下、対人関係のもつれなどがみられる。いわゆる「中だるみ」の傾向がうかがえるので、3学期を次年度への準備期間とし、改めて、指導を徹底したい。また、「進路意識」に欠ける生徒も多いように見受けられるので、あらゆる場面で「進路」への意識を高められるような仕掛けを準備できたらと考えている。

9 第3学年

基本方針	学年スローガン「One For All, All For One」 ① 自ら学校生活を楽しみながら他者を理解し社会性を身につける ② 自らコミュニケーション能力と各科の専門性を高める ③ 自ら進路を切り開いていける資質・能力をつける
専門性等	・進路指導部と協力して、生徒自らが自分の考えに合った進路実現を目指すように指導する。 ・作文添削指導や面接指導を行うことで生徒自身が自己分析を行い、自分磨きができるように指導する。 ・学年、クラスの教育活動において ICT を活用し、所属する学科での専門性を高めさせる。
自尊意識等	・体育祭、桃陵祭などの学校行事を充実させることや、就職や進学の実験を積み重ねて自尊感情を高めさせる。
人権意識等	・学年行事、学年集会などのグループ活動のなかで、お互いを尊重しながら意見を交わすことなどを通じて協働する態度を身につけさせる。
地域連携	・地域清掃やボランティアへの参加を促し、地域の関係機関との連携を進め、地域の一員としての自覚を促す。
特別支援教育	・学習指導研修会、個別支援計画、中高連携シート等を活用し、支援を要する生徒について、学年全体での支援体制を確立する。 ・保護者との連絡を密にして、要支援生徒の相互理解に努める。
職員の協働	・学年全体での連携、情報共有を図り、協働支援体制を確立する。
教職員の資質	・互いの研究授業への参加、授業参観を促進し、実践力の向上を図る。
本校の魅力の発信	・ホームページやブログ、学年通信での情報発信に努める。 ・中学校との連携、地域機関との連携強化により、本校の魅力を生徒の言葉で伝えられるようにする。
本校の将来像	・地域を支える人づくり ・地域から支えられる学校づくり
成果と課題	成果 体育祭を通じて、自ら楽しみながら他者を理解することができ、また桃陵祭ではお互いを尊重しながら意見を交換し合い協働する態度を身につけることができた。 作文添削指導や面接指導を行い、生徒自身が自己分析を行うことができた。また、保護者との連絡を密にし、一般生徒だけでなく支援を要する生徒についての相互理解も行うことで、生徒全員のより良い就職・進学を実現することができた。 学年通信での情報発信により、生徒・保護者との連携を強化することができた。

10 生産ビジネス科

基本方針	・農業を通して知識や技能を身に付け、生きる力を養い地域の産業人を養成する。ふるさと自然や文化を愛し、地域の課題解決に参画する態度を養う。
専門性等	・専門教科や普通教科に丹波学および課題研究などを結びつけ、各自の専門性を向上させる。スマート農業やトレーサビリティ等を意識した学習を通じて社会の変化を柔軟に捉え、それに対応した知識と技術を身につける。
自尊意識等	・地域ブランドに触れるため、積極的に家畜の飼育や作物の栽培に取り組む。 ・地域ブランドを生産しているプライドを持たせ、自尊感情やふるさと丹波への意識の醸成をはかる。
人権意識等	・縦断的な他学年との実習の中で、声掛け・指示の仕方などを学び、他者を尊重する精神や協調性、責任感などを育成する。
地域連携	・地域のイベントや各種講演会などにも積極的に参加する。地域ブランドの栽培・飼育を行う中で、関係機関との連携や特産物等への学びを深める。
特別支援教育	・生徒の状態や特徴を把握し、教員間で情報を共有する。生徒個々の特性を理解したうえで対応を行い、インクルーシブ教育の推進を図る。 ・生徒個人個人を注視できるように専攻別の少人数制の学びを展開する。
職員の協働	・学科として長期目標を設定し、組織としての活動を活性化させる。 ・週に一回は科会を行い、業務進行状況や課題、生徒情報などを共有する。
教職員の資質	・校内外でイベントを企画運営することで、計画や運営の機会を増やし、生徒と共に物事を作り上げていく力を育成する。 ・積極的な研修会や研究会への参加を促し、0から1を生み出す力と1を10に伸ばす力を身につける。
本校の魅力の発信	・画像や動画などの視覚情報を活用する中で、本校本科では何ができ、何を学び、どう成長するのかを分かりやすく伝える。 ・HPの更新頻度を増やし、行事やトピック等のPRを積極的に行う。
本校の将来像	・地域の一次産業を担う人材育成を主軸とし、地域に還元できる地域産業人を育成するための学科体系を検討する。 ・本校本科で学んだ生徒が地域を支え、本校を支える人材育成を目指す。
成果と課題	【成果】 ・各課題研究班においては、学校での課題や地域の問題点に取り組み解決するための研究や実習を行うことができた。特に丹波農作物班では黒ゴマや白雪大納言小豆などの栽培管理や改善を行い研究発表などに取り組めた。 ・専門性を高めるために資格取得（大特、車両系建設機械、刈払機など）の資格を斡旋し、多くの生徒が取得することができた。 【課題】 ・更に専門性を高めるために上級学校への進学（県農大、四大など）を進めると共に、農業関連団体等との学びの機会を増やす必要を検討する。 ・実習科目でのタブレットの活用と農場でのWi-Fi環境の整備をお願いしたい。 ・農場の施設設備が老朽化している。長期的な計画のもと更新をお願いしたい。

II 食品ビジネス科

基本方針	・食品加工、食品製造、品質管理の技術を軸に栽培、販売の基礎を学習し、6次産業に対応した人材の育成。
専門性等	・食品製造や流通・食品衛生・食品化学の専門性を生かした実験・実習を実施。
自尊意識等	・地域交流や小学生との交流授業を通して、生徒たちが地域での活動から学ぶ力や自己有用感、自尊心を高め、働く力の育成に努める。 ・生徒各自の目標達成のための取り組みを通して、自己を理解し向上に努める。
人権意識等	・実験・実習を通して互いに協力し、思いやりを持って自他を高める態度を身に付けさせる。
地域連携	・地域企業等と協力し、地域食材を使用した商品開発をし、地域とのつながりを強くする。 ・道の駅や地元イベントに販売実習のかたちで参加することにより、地域とのつながりを強くする。
特別支援教育	・特別支援推進委員会や担任と連携し、支援を要する生徒の共通理解及びわかりやすい授業実習に取り組む。
職員の協働	・科の目標に対して科内の共通理解を図る。また、他科をはじめ、部、学年との連携を深める。
教職員の資質	・食品に関する講習会等に積極的に参加し、個人の能力の向上を図るだけでなく、その知識の共有に努める。
本校の魅力の発信	・日常の実習などの情報をホームページで発信するだけではなく、原材料栽培から加工における校内製品の良さ（他には負けない商品）をイベントなどでアピールする。
本校の将来像	・地域に必要とされるためにも、学科の目標でもある6次産業化に向けた人材の育成はもとより、商品の販売についてインターネット販売など全国に、本校の加工品を販売できる販売網を確立する。 ・地元に残り地域を支えるリーダーを育成する。
成果と課題	成果 ・道の駅（おばあちゃんの里）で加工品販売実習を年間7回実施し、地域の方はもとより、県外の方への接客により生徒自身が達成感と考える力やコミュニケーション能力を向上することができた。 ・地域企業等と協力し、本校産鶏肉を使用したサラダチキン塩麹味の商品開発をし、商品化、販売することができた。 ・日常の実習の様子をSNSで発信することができた。 ・食品関係の外部講師を招いた生徒への出前授業を実施し、生徒の知識の向上はもとより職員の知識向上にもつながった。 課題 ・科単位での企業見学の実施。 ・実習でのタブレット使用におけるWi-Fiの環境整備。 ・バレー部寮西側圃場の整備。（灌水用の水道工事等）

12 生活ビジネス科

基本方針	・「地域から学び 学びを地域に」をモットーに「農」「食」「福祉」を体験的に学び、地域を担うことのできる生徒を育てる。
専門性等	・安心、安全を第一として、農産物の生産・提供を目指す。 ・座学と実習の学びを連携し、深い専門学習を行える環境を作る。 ・生徒自身が誇りを持てるような食の学びや福祉の学びを実践し、一人ひとりが成長できる指導に取り組む。
自尊意識等	・学びの成功体験をより多く提供する機会を持ち、自尊意識を高める。 ・学年を横断した時間外総合実習の配当を行い、お互いを認め合う。
人権意識等	・実習で仲間と協働して取り組むことで協調性を養う。 ・交流活動や連携授業を通して社会性と他者を理解する力を養う。
地域連携	・「学んで良かった」、「地域から愛される」、「地域に貢献できる」生活ビジネス科となるよう、年次計画で学習内容を深化させる。 ・こども園との交流活動や地域での販売活動を通じ地域連携を行う。
特別支援教育	・学年と科の連携を深めて情報共有と個々の生徒理解を図る。 ・支援学校との連携を通じて、特別支援教育の充実を図る。
職員の協働	・継続した科会を開催することで、共通認識を図り、協働して課題解決に努める集団作りをする。 ・学科長会、農場会議などを通じて、他科との情報交換や共有を図り、共に成長できる集団を目指す。
教職員の資質	・講習会などに参加して個々の能力の向上を図る。その情報や技術を職員間で共有し、生徒に還元していく。
本校の魅力の発信	・授業の取り組みなどをHPに掲載し、学びの様子を発信する。 ・生産物を通して学科の魅力を発信する。
本校の将来像	・以上の取り組みより、他校や他科との差別化を図る。 ・在校生が学びに満足する、卒業生が学んでよかった、中学生が学びたいと思える学科の在り方を考える。 ・類型学習の成果と課題を検証し、一人でも多く地域に貢献できる人材の育成を目指す。
成果と課題	・安全に留意し、事故や怪我無く授業を進めることができた。しかし、実習時の高温対策についてはより有効なものを考え、早急に進めていく必要がある。 ・継続した科会の実施により職員間の共通認識を深めることができた。 ・1年生を中心として子ども園との交流を年4回、2年生同士を対象として特別支援学校との交流学习を年3回おこなうことができた。日頃の学習内容を周囲から価値があるものと認めてもらえる体験は生徒自身の考え方に大きな影響を与え、成長する機会となった。 ・生徒の興味・関心や実態に沿う形で令和7年度入学生からの類型学習開始時期や学習科目の見直しを行うことができた。 ・日々の授業の様子をHPで配信することができたが、農業の実習については配信の頻度が低いため、さらなる充実を図る必要がある。 ・生活ビジ初科での学習を通して生徒が成長していく実感はあるが、中学生および保護者・教員への伝え方を真剣に考え対策を立て、実施していく必要がある。